

ディリー・ジーザス・ニュース #176

(注：この投稿のオンライン新聞版は[ここからお読みいただけます。](#))

後期ユダヤ教宣教：イエスは弟子たちを弟子としての基礎を訓練する

イエスは他者への無条件の愛について教える：「善きサマリア人」

ルカ10.29-37

29 法律の専門家 彼は自分を正当化したかったので、イエスに尋ねました。「では、わたしの隣人とはだれですか？」

30 イエスは答えられました。「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、突然強盗に襲われました。強盗たちは彼の服をはぎ取り、殴り倒して、半殺しにしたまま逃げ去りました。

31 ちょうどそのとき、祭司がその道を通って行き、その人に目を留めると、向こう岸を通りて行きました。32 同じように、祭司もその場所に来て、その人に目を留めると、向こう岸を通りて行きました。

33 ところが、ある嫌われ者のサマリア人が旅の途中で、その人のところにやって来て、その人をよく見て、深い憐れみを感じた。34 彼はすぐにその人のところへ行き、イエスは傷口に包帯を巻き、油とぶどう酒をたっぷりと注ぎました。それから、その男を自分の口ばに乗せ、宿屋に連れて行き、介抱しました。

35」翌日、彼は二日分の賃金を そして、それを宿屋の主人に渡しました。「あなたは彼の面倒を見なければなりません」と彼は言いました。「私が戻ったら、あなたが余分に支払った費用を私が自分で支払います。」

36 「この3人のうち、強盗に襲われた男の『隣人』になったのは誰だと思いますか？」

37 律法の専門家は答えた。「あわれみ深い者です。」

イエスは彼に言いました。「私はあなたに、出て行って同じようにしなさいと命じます。」

=====

注：私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します：マタイ =^{MT} 、マーク=^M 、ルカ =^L 、ヨハネ =^J 、使徒行伝 =^A 。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体**はイエスの言葉を示します。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	旅の途中、ユダヤのどこかで
タイムライン	9月 (31月)

ディリー・ジーザス・ニュース #176

イエスの生涯の文脈	第六段階：イエスの後期ユダヤ教宣教
	D. イエスはユダヤで宣教し、弟子たちを訓練する
	1. イエスは弟子たちを弟子としての基礎を訓練する
タイトル	ii. イエスは他者への無条件の愛について教える：「善きサマリア人」

コメント：

この律法学者は、全身全霊で神を愛し、隣人を自分自身のように愛するという至高の戒めに従っていると思い込み、自分を欺いていました。もし彼が実際にそうしていたなら、イエスのように罪のない者となり、自らの人生の質によって永遠の命を得る資格を得ていたはずです。

永遠の命を実際に受け継ぐ可能性を得るためにには、この男は自分の罪を認め、神からの裁きと永遠の断罪以外には何も受けるに値しないことを、打ち碎かれた心でイエスのもとに告白する必要がありました。そうすれば、イエスを通して惜しみなく与えられる、全く値しない神の憐れみ、恵み、そして赦しが、律法学者が自力では決して得ることのできなかった永遠の命という賜物を彼に与えることができたはずです。

イエスは「善きサマリア人」のたとえ話を、隣人への真の愛とは何かを説明するために語りました。それは、律法学者、そしてすべての人々に、私たちは皆、他人を真に愛することに日々欠けていることを示すためでした。神の言葉のあらゆる要求は、無条件の愛を行動と態度で表現するものであるため、私たちは罪深いのです。

重要なのは、物語の中の律法学者もレビ人も、傷ついた男を無視したことは悪いことだとは思っていなかつたということです。彼らは心の中では正しいことをしたと確信していました。しかし、彼らは完全に間違っていました。神のように無条件に愛さなかつたことで、彼らは神を真に愛することからどれほどかけ離れているかを示してしまったのです。

一方、サマリア人は、自分を敵とみなしていたであろう人に対して、無条件の愛を示しました。彼は自らの危険と犠牲を払って、傷ついた人の必要を満たしました。彼は彼に深い同情の念を抱きました。私たちがイエスに敵意を抱いていたにもかかわらず、彼はイエスが私たちを扱うのと同じように、傷ついた人に接しました。このたとえ話は、イエスの新しい戒め、「わたしがまずあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」という戒めを具体的に示していました。

イエスによれば、わたしの隣人とは誰でしょうか？それはすべての人です。

世界中のすべての人は、私たちを通して表される神の無条件の愛の対象となるべきです。それは、神が最初に私たちに惜しみなく注がれ、私たちの内に注がれた愛そのものです。例外はありません。私たちはすべての人を、常に無条件に愛さなければなりません。これがイエスが説く弟子の第一の原則です。

デイリー・ジーザス・ニュース #176

神がまず私たちを愛してくださったように、無条件に他者を愛することを学ぶことは、地上でのあらゆる経験における中心的な学習目標です。私たちは、まず私たちを愛してくださった神を愛するからこそ、他者を愛するのです。イエスによれば、これが弟子としての生き方です。

応用：

目に見えない神を愛していると言うのは簡単です。しかし、神が愛するすべての人々を私たちがどのように愛するかこそが、私たちが神をどれほど愛しているかの真の証なのです。

今、あなたが無条件に愛せないのは誰ですか？

イエスがまずあなたを愛して下さったのと全く同じように、彼らと接するために、あなたは何を変える必要がありますか。いつからそうし始めますか。